

方針1:ふるさと福井に誇りと愛着を持ち将来の福井を考える人を育てる 「ふくい創生教育」の推進

- **ふるさとの先人100人の生き方から学ぶ副教材の中学校・高校における活用**
⇒ 道德の授業やHR等において、先人の生き方や考え方について発表や討論を推進
- **福井ゆかりの作者や作品を題材とした古典音読・暗唱ノートの小・中学校における活用**
⇒ 全小・中学校に増補版を配付。国語等の授業や朝の会・帰りの会等において活用推進
11月に各学校の様々な活用の好事例を、全小・中学校で紹介
- **普通科系高校1年生が県内企業を訪問し、魅力を知る機会を充実**
⇒ 8月から県内企業38社の協力を得て実施。高校1年生730名が参加
- **都会の生活と比較して福井の魅力を学ぶ副教材を活用したライフプラン学習を推進**
⇒ 中学校・高校に教材を配付し、教員講習を実施。家庭科の授業において活用
- **地域人材コーディネート体制を整え、児童・生徒が自ら企画・提案する体験学習を拡大**
⇒ 小・中学校142校において、地域コーディネーター（409名）を委嘱し、特産品のPRやまちづくりへの参画など、体験学習を実施
- **小・中・高の国語教員に中国語研修実施**
⇒ 中国語の文法を学び、中国語で漢詩を読むなど、小・中・高校の国語教員を対象にした研修会を8月と12月に実施

〔今後の方向性〕

- 「古典音読・暗唱ノート」を小学3年生、中学1年生に配付
- 普通科系高校生の職業観を効果的に育成するため、**企業訪問前後の学習を拡充**
- **地域の人材や企業と連携した提案型の体験学習の実施校を全校に拡大し、地域への参加や学校間の交流を充実**
- **白川文字学を活かした「間違いやすい漢字」教材の開発など、漢字教育を拡充**

〔今後の方向性②〕

- **各高校において教科ごとに授業力向上リーダーを定め、授業のレベルアップを主導**
- **大学入学共通テストに備え、国語、数学の全教員を対象に教員研修を実施**

方針2:夢や希望を実現する「突破力」を身に付ける教育の推進

- **小学校高学年の理科に教科担任制、中学2・3年生の英語・数学に習熟度別学習を拡充**
⇒ 約7割の小学校において理科の教科担任制を実施
約5割の中学校（英語22校・数学18校）において習熟度別学習を実施
- **小・中・高校生が参加する「ふくい理数グランプリ」、少人数「理数ゼミ」を実施**
⇒ 小学校部門827名、中学校部門1,292名、高校部門412名が参加
「理数ゼミ」3回実施、小学生37名、中学生78名が参加
- **優れた教材や評価問題、学校運営を収集・提供するとともに、学校訪問により授業を改善**
⇒ 「教材・評価問題集」「学校マネジメント集」を作成し、全小中学校に配付
小学3～6年（国語・算数・理科）、中学1～3年（国語・社会・数学・理科）
⇒ 8月に全小中の教科主任、11月に全小・中学校の校長を対象とした研修を実施
- **高校ごとの選択問題や英語スピーキングテスト導入など、高校入試制度を変更**
⇒ 記述問題の拡充、選択問題の導入、英検の加点を決定し、平成30年度入試から実施
- **校長をトップとした大学指導体制を強化し、個別指導や大学別講座を早期から実施**
⇒ 3年生の当初から個別添削指導を実施。また、大学別講座を2年生から実施
遠隔授業・研修システムを使って、最難関大学の入試情報を共有
- **高校教員と教育研究所が連携して到達度確認テストを実施し、授業改善に活用**
⇒ 8月に3年生対象の記述式試験、9月に高校2年生対象のマーク式試験、さらに1月には1、2年生対象のマーク式試験を実施
- **高校1年生と保護者を対象にした大学進学セミナーを実施**
⇒ 4月に進学意欲を高めるためのセミナーを実施（生徒380名、保護者383名）
- **大学進学サポートセンターにおいて、既卒生に対する学習指導や進学相談を拡充**
⇒ 78名が登録し、毎日20～30名が利用。教科ごとの定期的な学習会を実施
- **本県独自のカリキュラムに基づく保幼小接続を県内全域で実施**
⇒ 27～29年度で市町幼児教育アドバイザー88名、園内リーダー398名を養成
12月にフォーラムを開催し、実践事例を発表。県内外から約670名が参加

〔今後の方向性①〕

- **小・中学校において課題が見られる内容の授業を改善。進度に応じた授業を拡充**
 - ・ 県、嶺南教育事務所、教育総合研究所、市町が連携して、研究協力校として指定された小・中学校あわせて25校を訪問し、指導体制を強化
 - ・ 全国学力・学習状況調査やSASA等に基づき、教科ごとの授業改善を指導
 - ・ 生徒の進度に合わせた中学生の英語・数学の習熟度別学習を拡充

方針3:社会への参加を進め、高度な専門知識・技能を身に付ける教育の推進

- **主権者教育の指導事例集を高校の教員向けに作成するとともに、実践的な学習を実施**
⇒ 教員研修を充実し、学校において模擬投票や国・地域の課題等を討論する授業を拡充
- **高校生が地域貢献活動の情報を収集し、ボランティア参加を促進**
⇒ 生徒が年間計画を作成し、地域のニーズに合わせたボランティア活動を実施
- **職業系高校生の資格取得を支援する「福井フューチャーマイスター」の認定を推進**
⇒ 職業系高校生の8割以上となる約1,734名を認定し、企業の即戦力となる人材を育成
- **高度園芸や6次産業化に対応した農業教育の充実**
⇒ 若狭東高校において薬草の産地化や施設園芸に対応できる教育を進めるとともに、福井農林高校、坂井高校において栽培に加え、加工や流通など経営の学習を拡充

〔今後の方向性〕

- **新聞などを活用した時事問題の学習用教材を作成し、討論型の授業に活用**
- **企業・大学との連携を強化し、実践的な職業教育を充実**
- **福井フューチャーマイスター制度の就職活動における利用を促進**

方針4:グローバルな社会で活躍するための「使える」外国語教育の推進

- **小学校外国語教科化を国に先行して実施するための指導体制を整備**
 - ・ 小学校の中核となる教員を対象に研修を実施し、全小学校の教員が受講
 - ・ 全小学校教員が語学講座を活用して英語を学習し、研修会で実践事例を発表
- **小学校外国語の指導案・教材を作成し、研修会を実施。全小学校での指導体制を整備**
- **生徒が英語を使う機会を拡大するとともに、ALTと母国語を教え合う活動を設定**
 - ・ 中学校におけるALT活用を週1.5時間に拡大。全小学校に学期1回派遣
- **中学生・高校生の外部検定受検を支援するとともに、校内スピーキング評価を活用**
 - ・ 全中学校・高校において定期試験に合わせたスピーキング力の評価を実施
 - ・ 中学3年生7,319名、高校生4,322名の英検、GTEC等の受検を支援

〔今後の方向性〕

- **小学校外国語教科化の先行実施。中学校では発展的な授業のための教材を作成するとともに、習熟度別授業を拡充**
- **外部検定試験の受験料補助を拡充するとともに、英検講座を開催**

方針5:福井の教育を支える教員の指導力をさらに向上

- **新たな教育課題に対応するため、教育総合研究所の機能・体制を強化して教員を支援**
⇒ ミドルリーダー養成やマネジメントの研修充実、研究所研修への免許状更新講習の取り込みや通信研修の活用拡大により教員の負担を軽減
- **若手教員が参加した自主研究グループを支援**
⇒ 小学校英語教育やICT活用など100グループが自主研究活動を実施
- **部活動指導のあり方や校務事務の進め方などの方針を決定し、学校業務を効率化**
⇒ 放課後や休日の部活動指導体制の見直しと部活動講師の配置
- **高校における進学指導など実績ある退職教員の活用を促進**
⇒ 新たに小学校理科支援、高校における受験指導等を実施。退職教員等191名を活用
- **教育博物館を開設し、全国トップクラスの福井の教育を県内外に発信**
⇒ 本県ゆかりの教育者の紹介や、全国トップクラスの学力・体力を支える取組みを発信

〔今後の方向性〕

- **教員育成体制の充実と、学習支援の強化**
 - ・ 「福井県教員育成指標」を策定し、関係機関と連携して資質・能力を育成
 - ・ 教員志望者の意識向上のため、大学生等を対象に「ふくい教員志望者セミナー」を開催
 - ・ サイエンスラボにおける理科実験の配信を小学校に拡大
 - ・ 福井市の中核市移行後も教育力維持・向上のため、県において全教員の研修を実施
- **教育博物館の機能充実**
 - ・ 企画展や自主学習の場として活用できるスペースを整備し、企画展の充実や小・中学校の校外学習での利便を向上
- **学校業務の効率化を進め、教員の負担軽減と指導力向上を促進**
 - ・ 学校運営支援員を全小・中学校に、部活動指導員を全中学校、高校9校に配置拡充
 - ・ 県立学校の校務支援システムを統合型に変更し、成績管理などの負担を軽減
 - ・ 小・中学校の県内統一の校務支援システムの導入を支援
- **教員の自主研究活動により、指導力の向上を促進**
 - ・ 引き続き教員の自主研究活動を支援するとともに、若手教員と中堅教員、退職教員等との交流を促進し、福井の教育力を継承

方針6:安全・安心でみんなが楽しく学ぶ学校づくりの推進

- **いじめ・不登校対策として、スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーの配置を拡充**
 - ⇒ 27年度からスクールカウンセラー17名、スクールソーシャルワーカー7名を増員
 - ⇒ 全小・中学校に配置。不登校者数の多い中学校への配置を拡充
- **全小・中学校において生徒の自主的なルールづくりを進め、ネットの適正利用を促進**
 - ⇒ 全小・中学校において児童会・生徒会等を中心にルールを作成
- **特別支援学校生徒の職場実習等に協力する「就労サポーター企業」制度を拡大**
 - ⇒ 約100社が登録見込（制度開始からの総登録企業数 200社）
- **本県独自の食育教材を活用し、小・中学校における食育の授業を充実**
 - ⇒ 家庭科や学級活動、給食時間に、栄養教諭による食育授業を年5回実施
- **県漁連やJAと協力し、地場産食材を活用した加工品を開発し、学校給食に提供**
 - ⇒ 水産加工品を2品、農産物加工品を1品開発し、給食提供を開始
- **近視・むし歯の予防と早期対応など、保健指導を充実**
 - ⇒ 全小・中学校で目のリフレッシュタイム、ビジョントレーニングを実施
 - 各小・中学校において正しい歯みがき指導を実施するとともに、歯科受診を勧奨
- **高志中学校・高校にランチルーム・厨房を設置し、生徒への給食提供を開始**
 - ⇒ 12月に給食施設が完成し、1月の始業日から生徒への給食提供を開始

〔今後の方向性〕

- **スクールカウンセラーを10名、スクールソーシャルワーカーを3名増員し、学校に対する支援を強化**
- **小・中学校ともにルールの内容を検証し、毎年見直し**
- **高校通級の開始ならびに小・中学校における通級指導担当教員の増員、通常学級における個別支援計画の策定の徹底など、発達障害児等に対する支援を拡充**
- **特別支援学校における就労支援体制を拡充し、自立と社会参加を促進**
- **県産食材を豊富に使用した「福井地場産給食」を年3回実施**

方針7:児童・生徒数の減少や社会の変化に対応した学校・学科の整備

- **丹南地区高校教育懇談会を開催し、地区県立高校再編計画を策定**
 - ⇒ 32年度を目途に丹南高校を鯖江高校に統合、武生商業高校と武生工業高校を統合し、総合産業高校を設置する内容の再編計画を策定
 - 丹南地区の再編時期にあわせ、敦賀高校に鯖江・武生高校と同様な新学科を設置決定
- **双方向型の遠隔授業・研修システムの整備を進め、各学校における活用を拡大**
 - ⇒ 29年度から30年度にかけて、小・中学校の2台目整備を支援
 - 交流授業や教育総合研究所からの理科実験の配信などによる授業の多様化、教員研修や会議・打合せでの利用による効率化、教員の負担軽減に活用
- **年数が経過した学校施設を対象に、計画的な長寿命化工事を開始**
 - ⇒ 長寿命化工事の設計および工事を実施。30年度以降も計画的に整備

〔今後の方向性〕

- **統合再編する高校ごとに準備委員会を設置。二州地区は、地元関係者と協議**
- **新たな教育課題に対応するための教育ICT環境の整備**
 - ・ 探求型学習を重視した新学習指導要領や大学入試新テストに対応した授業改善のため、**県立高校にプロジェクターや無線LAN、タブレット端末等を整備**

方針8:生涯にわたる学びを地域活動につなげる仕組みづくりの推進

- **福井ライフ・アカデミーに実践型講座を導入し、地域貢献につながる学びを促進**
 - ⇒ 地域に貢献する実践的な講座を開講。4コースに207名が参加（1月末現在）
- **芦原青年の家において、地域資源を活用した新たな体験プログラムを実施**
 - ⇒ 28年7月の新築開所以降1年間の利用者は約3万2千名（前年同期の約5倍）
- **新たにPTAと連携した保護者向け家庭教育研修を実施**
 - ⇒ 6、7月にPTA地区別研修会を5ブロックで実施
 - 7月にインターネットの適正利用、10月に規則正しい生活習慣・読書活動・お手伝いの重要性をまとめた家庭教育用のチラシを小・中学校の保護者向けに配付

〔今後の方向性〕

- **PTAと連携した家庭教育研修や保護者向けのパンフレット配付を継続して実施**
- **教科書や学力調査の問題など保護者が子どもの学習内容に触れる機会を増加**

方針9:地域への愛着を深める芸術・文化活動や創作活動の充実

- **弦楽クラブ参加者を増やすとともに、児童・生徒が本物の芸術に触れる機会を拡充**
⇒ 敦賀市内小中高の新規校を含む県内16校において、219名の児童・生徒がクラブ活動等で弦楽器を演奏。
五嶋みどり氏など、著名な演奏家による演奏を実施
9月にハーモニーホールで、全推進校の児童・生徒による合同演奏を披露
- **ふるさと文学、古典などを全小・中学校に巡回し、学校・家庭における読書活動を推進**
⇒ 6月から3冊目の巡回を開始。読書習慣定着のため、家庭への持ち帰りを推奨
- **大手編集者が指導する「ふくい文学ゼミ」を開催。修了生や文学愛好家グループ等が交流する「文学フェスタ」を開催**
⇒ 「ふくい文学ゼミ」に高校生3名を含む24名が参加。月1回の指導や情報交換を実施
修了生を含む18団体が「文学フェスタ」で発行誌を紹介し、広く交流
- **書写・書道指導員を小中高校に派遣するとともに、教員向けの実技研修会を開始**
⇒ 外部指導員を79校に派遣。教員419名が実技研修会に参加（1月末現在）
- **丸岡城の国宝指定を目指し、坂井市が行う建築年代の特定等の調査を支援**
⇒ 建築年代をさらに絞り込むため、石垣や石瓦等の調査を実施
- **中高の吹奏楽部に対して、外部指導者による演奏指導や大型楽器の整備を支援**
⇒ 指導者や生徒を対象に、プロオーケストラ指揮者、県内演奏家等が指導（48回、1,778人参加）
11月、2月に東京藝術大学と連携した吹奏楽講習会を実施
ティンパニやチューバなどの大型楽器を贈与（7高校、19中学校）
- **他県の文学館と連携し、資料の相互交流や共同企画を実施、展示内容を充実**
⇒ 11月に荒川区立吉村昭記念文学館と全国初の「おしどり文学館協定」を締結し、記念特集展示を実施

〔今後の方向性〕

- **部活動の加入者が多い吹奏楽、地域の指導者が多い書道など、芸術教育を拡充**
 - ・ 吹奏楽を専門的に指導できる教員を養成。大型楽器の購入を支援
 - ・ 書写・書道の授業への外部指導者の派遣を継続
- **ふるさと文学館および吉村昭記念文学館において、双方の資料を活用した合同企画展等を実施**

方針10:「福井しあわせ元気国体」の優勝を目指した競技力向上と国体の成果を活かした県民スポーツの振興

- **福井国体における総合優勝の成績を目指し、オリンピック出場経験のある指導者などからの直接指導機会を増やすとともに、強豪チームとの練習機会を充実**
⇒ 少年強化のためスーパーアドバイザーを12名追加し、月2回派遣（1月末現在561回）
県外強豪チームとの実戦練習や大会に帯同
怪我の防止やメンタル指導等のためトレーナーを37競技に1821回派遣
- **「スポジョブふくい」等を活用し、日本代表級を含めた有力選手を確保**
⇒ スポジョブふくい等で有力選手182名を確保済。55名内定（目標：220名）
特別強化コーチとして日本代表級を含む選手99名を確保済。8名勧誘中（目標：100名）
ふるさと選手の出場確約済171名（年度末目標：160名）
- **北信越国体福井大会で応援団を結成し、福井国体の応援体制を整備**
⇒ 22競技（延べ1,600名）で高校生応援団を結成し、応援を実施
- **県民が気軽に参加できるスポーツイベントを全市町において開催**
⇒ 17市町でイベントを開催（延べ28回）。年度内に全市町で延べ35回開催予定

〔今後の方向性〕

- **福井国体における総合優勝実現のため、さらに競技力を向上**
 - ・ スーパーアドバイザーの福井国体への帯同を追加
 - ・ 大会中の怪我を防ぐため、インターハイ、県外遠征にもトレーナーを派遣